障がい児・者歯科検診マニュアル

作成　日本障害者歯科学会 地域医療推進委員会 2018

1. 日本障害者歯科学会作成の歯科検診票の活用について

- □ 本検診票は歯科口腔保健法に基づく基本的事項の目標である「障害者・障害児：定期的な歯科検診・歯科医療の推進」などに寄与することを目的に作成した
- □ 本検診票では摂食に関する状況や過敏の有無、定期的な継続管理の必要性などについても診断・評価を行うため、「検診票」の名称を使用した
- □ 検診終了後、「歯科検診結果のお知らせ」に記入し受診者に渡す（記載内容は個人情報であり、十分に配慮して扱う）
- □ 本検診票の検診項目は受診者等の状況を考慮し、必要な項目を選択して使用してもよい

2. 準備する物

- □ グローブ・マスク
- □ ライト（アウトドア等で使う頭部につけるものが便利）
- □ 消毒用アルコール等
- □ ペーパータオル
- □ デンタルミラー（メタルミラーもできれば準備）
- □ 歯科用探針
- □ 歯ブラシ
- □ 開口器やバイトブロックなどの開口保持器

3. 環境（臨機応変に）

- □ 明るく安全な部屋で行い、受診者に不安を与えないように配慮する
- □ 受診者が安心して検診を受けやすい姿勢にする
- □ 利き手側に必要器具を置き、記録者は検診者の近くで聞き取れるようにする
- □ 協力が得られない受診者で転落の危険性がある場合には、周りに人を配置する

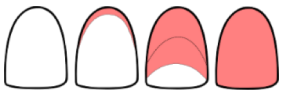
4. 歯科検診時の注意点

- □ 受診者の周囲に危険物を置かない
- □ 受診者の様子を考慮し、無理に行わない
- □ 開口による呼吸抑制の危険があるため、検診中は受診者の呼吸状態を常に把握する
- □ 安全のため抑制が必要な場合は、了承を得て安全性に配慮して行う
- □ やむを得ず抑制をする場合には関節周囲を抑える（関節は抑えない）
- □ 噛まれる危険性があるため、歯列から舌側に指や器具を入れない
- □ 受診者の急変時には大声で応援を呼ぶ

口腔内診査と判定・記録の方法について

- □ 学校歯科健康診断などと同様に判定し、項目によっては診断・評価まで行う
- □ 探針の使用は状況に応じて判断し、使用する場合は先が鋭利でないもの、またはWHOのCPIプローブ等を使用する
- □ CO(要観察歯)は視診等にてう蝕の初期病変の徴候(白濁、白斑、褐色斑)が認められ、定期的な継続管理が必要と思われる場合
- □ C(未処置歯)は視診等にて明らかなう窩が確認され、治療が必要と思われる場合
- □ Cに関しては、部位を記入する
- □ 歯垢の付着は表１、歯石の沈着は表２を参考に評価する。必要に応じて表３を参考にOHI-Sを算出する
- □ 歯肉の状態（歯肉の炎症）は表４、粘膜疾患は表５を参考に診断・評価する
- □ 歯列･歯列の形態は表６、顎関節は表７を参考に診断・評価する
- □ 口腔過敏は表８を参考に診断・評価する
- □ 検診への協力状態は表９、歯科管理の必要性は表10を参考に評価する

■ 歯垢の付着:OHI-S DI-S（Debris　Index）（表1）

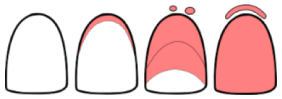


歯面に付着している歯垢を視診し、判定する

【判定】

（0）　ほとんど認められない場合
（1）　歯面の1/3 以下に付着している場合
（2）　歯面の1/3 ～2/3に付着している場合
（3）　歯面の2/3以上に付着している場合

■ 歯石の沈着:OHI-S CI-S(Calculus　Index）（表2）



歯面に沈着している歯石を視診し、判定する

【判定】

（0）　ほとんど認められない場合
（1）　歯面の1/3 以下に歯肉縁上歯石が沈着している場合
（2）　歯面の1/3 ～2/3 に歯肉縁上歯石が沈着している、あるいは歯頸部付近に歯肉縁下歯石が点状に沈着している場合
（3）　歯面の2/3 以上に歯肉縁上歯石が沈着している、あるいは歯肉縁下歯石が帯状に沈着している場合

■ OHI-S（Oral　Hygiene　Index – Simplified)の計算方法(表3)

(1)口腔内を6分割して、各区分の対象歯の歯垢付着(DI-S)と歯石沈着(CI-S)を評価する
(2)OHI-S=(DI-S)+(CI-S)=(プラークスコアの合計)/被検歯数+(歯石のスコアの合計)/被検歯数
(3)最小値は0、最高値6である(詳細については教科書参照)

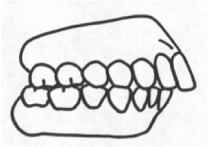
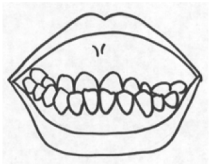
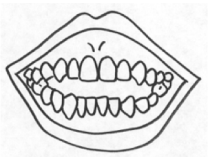
■ 歯肉の状態(表4)

歯肉の炎症(程度)	視診で歯肉の発赤、浮腫、出血、疼痛、腫脹などを判定する 【判定】 （0）　症状なし （1）　軽度の色調変化、表面状態にほとんど変化なし→軽度の炎症 （2）　中等度の表面光沢化、発赤、浮腫、増殖→中等度の炎症 （3）　著明な発赤、腫脹、自然出血、潰瘍 →重度の炎症
歯肉増殖 	歯間乳頭から遊離歯肉に広がる著しい歯肉の肥大･肥厚した状態
歯肉退縮 	辺縁歯肉の位置がcemento-enamel junction (CEJ)を超えて、歯根が露出した状態

■ 粘膜疾患(表5)

口内炎、咬傷、裂傷、瘻孔、膿瘍形成など

■ 歯列・咬合の形態(表6)

叢生	隣接歯が互いの歯冠幅径の 1/4 以上重なる状態
上顎前突 	オーバージェットが7～8mm 以上の状態 （通常使用するデンタルミラーの直径の 1/2 以上）
下顎前突 	前歯部 2 歯以上の逆被蓋の状態
開咬 	上下顎前歯切縁間の垂直的空隙が6mm 以上の状態（通常使用するデンタルミラーのホルダーの太さ以上） ただし、萌出が歯冠長の 1/3 以下のものは除く

■ 顎関節(表7)

顎の変位	開口または閉口時に顎の変位がある状態
開口障害	開口指示に従って開口した時に、自発的な開口ができない場合や咀嚼筋・顎関節の痛みがあり開口できない状態。ただし、指示が理解できないものを除く
閉口障害	閉口指示に従って閉口した時に、自発的な閉口ができない場合や咀嚼筋・顎関節の痛みがあり閉口できない状態。ただし、指示が理解できないものを除く
クリック音	開口または閉口時にクリック音を認める状態

■ 口腔過敏（表8）

歯ブラシなどの刺激物が口腔周囲に加わった直後より口腔周囲筋や顔面に強い緊張、頭部の逃避などが観察された場合は過敏を疑い、心理的拒否との違いを診断・評価する

■ 検診への協力状態(表9)

(1) 自分の意志で開口して口腔内診査ができる	→	良好
(2) 障害に起因または拒否のため、開口ができずに口腔内診査が困難	→	自発開口困難
(3) 体動が激しく、開口もできずに口腔内診査が困難	→	検診困難

■ 歯科管理の必要性(表10)

(1) 口腔内状況が比較的良いので、現在の口腔内清掃と定期的歯科管理を継続	→	継続管理
(2) う蝕または歯周疾患が認められるので、歯科受診が必要	→	治療必要
(3) 過敏や摂食嚥下機能の問題が認められるので、診断・評価・機能・訓練等が必要	→	治療必要
(4) 重度な歯科疾患が認められるので、早急な歯科受診が必要	→	早急に要治療

作成 日本障害者歯科学会 地域医療推進委員会 2018

歯科検診票

氏名	ふりがな	男・女	年　月　日生 （　歳）	障がい名	

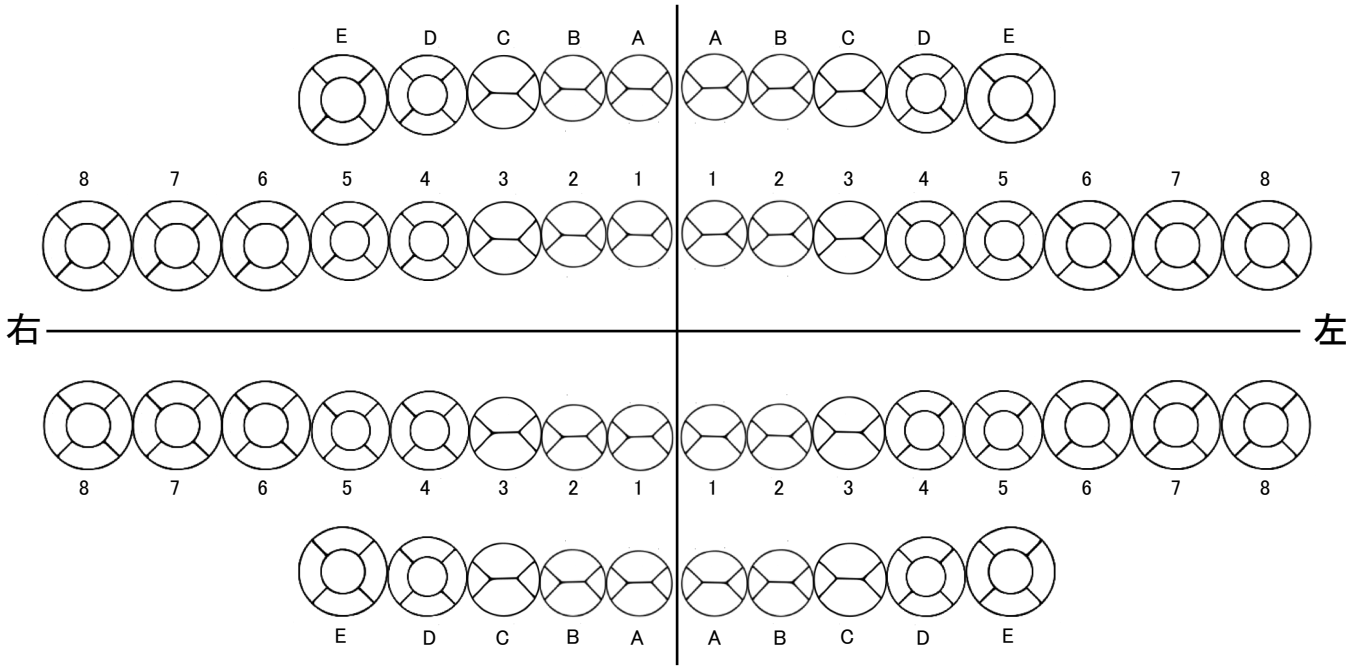
＊太枠内の記入をお願いいたします

・検診日　年　月　日
・年齢　歳
・常用薬　なし・あり
（　）
・かかりつけ歯科　なし・あり（　）
・定期歯科検診の頻度
なし・不明・あり（　か月に1回程度）
・摂食嚥下障害の問題　なし・あり
（　）
・栄養摂食方法・食形態
経口・哺乳・胃ろう・経鼻・点滴
常食・刻み・ソフト・ミキサー
・気になること・検診で気をつけてほしいこと
（　）

歯垢の付着	付着なし・付着あり（OHI-S DI:　）
歯石の沈着	沈着なし・沈着あり（OHI-S CI:　）
歯肉の状態	正常・歯肉の炎症・歯肉退縮・歯肉増殖
粘膜疾患	なし・あり（　）
歯列・咬合	問題なし・叢生・上顎前突・下顎前突・開咬・その他（　）
顎関節	問題なし・亜脱臼・開口障害・閉口障害・クリック音・その他（　）
口腔過敏・その他	なし・あり（　）
検診協力状態	良好・自発開口困難・検診困難
歯科管理の必要性	継続管理・治療必要・早急に要治療

＊ 検診マニュアルの表1～表10を参考に診断・評価する

【歯式記号】健全歯:／, 経過観ウ蝕:CO, 要治療ウ蝕:C, 処置歯:○, 喪失歯:△, 先欠歯:×, ブリッジ:└┘, 義歯:⬭



6 1 6 / 6 1 6		プラーク(DI-S)				歯石(CI-S)			
		右臼歯部	前歯部	左臼歯部	計	右臼歯部	前歯部	左臼歯部	計
上顎	頬(唇)側	(＿)	(＿)	(＿)	(＿)	(＿)	(＿)	(＿)	(＿)
下顎	舌側	(＿)		(＿)	(＿)	(＿)		(＿)	(＿)
	唇側		(＿)		(＿)		(＿)		(＿)

DI-S＝(　)　CI-S＝(　)
OHI-S(DI-S＋CI-S)＝(　)

現在歯数	(　)本		
DMF歯数	D (　)本	M (　)本	F (　)本
df歯数	d (　)本		f (　)本

コメント:

歯肉の炎症	右臼歯部	前歯部	左臼歯部
上顎			
下顎			

(0)症状なし (1)軽度の炎症 (2)中等度の炎症
(3)重度の炎症

検診歯科医師	
記録者	

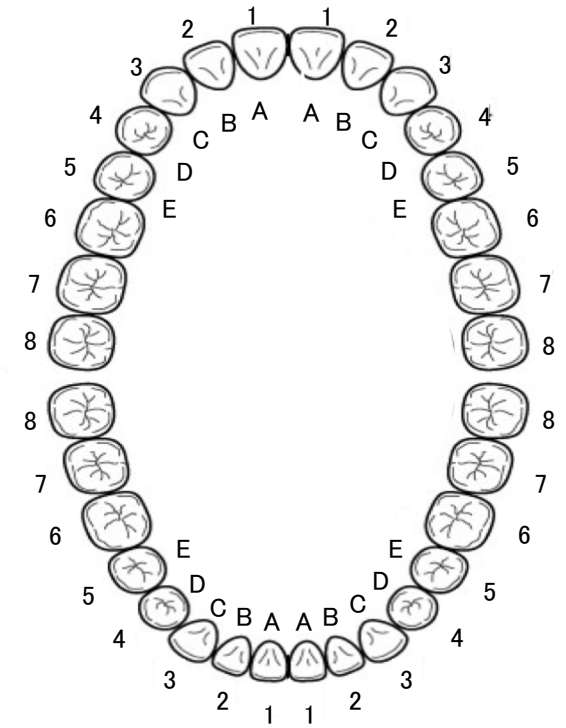
作成 日本障害者歯科学会 地域医療推進委員会 2018

歯科検診結果のお知らせ

20____年____月____日実施

_____さんの結果です。

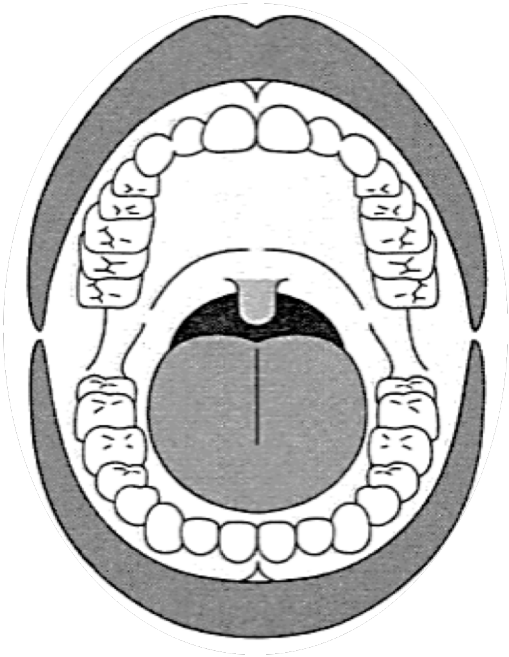
【歯の状況】



現在生えている歯 (　　)本
・永久歯 (　　)本
・乳歯 (　　)本

治療が必要な歯 (　　)本

【歯肉の状況】



【歯・歯肉の状態記号】
健全歯 :／
むし歯(未処置歯):C
処置歯 : ○
喪失歯 :△
歯肉炎 :
歯垢付着の多い部位:

☐ 特に問題ありませんでした → 引き続き口腔のケアをお願いします

☐ 歯磨きを徹底しましょう
☐ むし歯の治療をしましょう
☐ 歯肉の治療をしましょう
☐ 歯石を取りましょう
☐ その他(　　)

→

☐ 継続管理を受けましょう
☐ 歯科を受診しましょう
☐ 早急に歯科を受診しましょう

検診歯科医師